

第202回経営経済動向調査

～2022年10～12月期実績と2023年1～3月期及び4～6月期予想～

< 目次 >

調査概要等について	1 頁
I 国内景気動向の概要	2 頁
II 自社業況（総合判断）の概要	3 頁
III 企業経営動向 概要	4 頁
IV 当面の経営上の問題点	7 頁
V 企業の現況	8 頁
VI 企業からのコメント	9 頁
<付帯調査>	
VII 新卒採用活動について	10 頁
VIII 雇用・人材確保について	12 頁
巻末資料	16 頁

2022年12月 京都商工会議所

調査概要等について

＜調査概要＞

■ 調査目的：京都府内における短期的な景気動向を把握するため

■ 調査時期：2022年11月18日～12月2日

■ 調査対象時期：実績（見込） 2022年10～12月期
 予想 2023年1～3月期
 2023年4～6月期

※ それぞれ直前四半期との比較による。

ただし、自社業況の各項目の内、製・商品在庫は適正水準比

■ 調査内容：① 国内景気、自社業況の各実績と今後の予想
 ② 当面の経営上の問題点
 ③ 付帯調査

■ 調査対象：京都府内に本社、本店等を有する企業511社
 [製造業・建設業・不動産業・運輸・倉庫業は資本金3億円超、
 卸売業は1億円超、小売業・サービス業は5千万円超を大企業とした。]

■ 回答企業数：351社（回答率68.7%）

■ 調査方法：郵送によるアンケート方式

※ BSIとは、Business Survey Indexの略で、BSI値は景気全般の見通しについて、強気、弱気の度合を示す。
 プラスならば「強気」・「楽観」を、マイナスならば「弱気」・
 「悲観」を意味する。（ただし、製・商品在庫は適正水準比）

$$BSI = \{ (上昇(増加、他)と回答した企業の割合) - (下降(減少、他)と回答した企業の割合) \} / 2$$

＜回答状況＞

	対象企業数	回答企業数	回答率(%)	回答企業の構成比(%)
総計	511	351	68.7	100.0
製造業	272	181	66.5	51.0
食料品	29	24	82.8	6.7
繊維	14	12	85.7	2.8
染色	10	5	50.0	1.6
繊維製品	12	6	50.0	1.8
化学・ゴム	26	17	65.4	5.7
窯業・土石	12	7	58.3	2.3
鉄鋼	8	5	62.5	1.3
非鉄	22	14	63.6	3.6
一般機械	24	20	83.3	4.7
電気機械	36	21	58.3	6.2
精密機械	19	15	78.9	3.9
木材・木製品	14	9	64.3	2.3
出版・印刷	26	16	61.5	4.1
その他製造業	20	10	50.0	3.9
商業	83	60	72.3	16.8
卸売業	62	45	72.6	12.4
食料品卸	19	12	63.2	3.6
繊維卸	18	15	83.3	3.9
機械金属卸	25	18	72.0	4.9
小売業	21	15	71.4	4.4
建設業	32	27	84.4	8.0
不動産業	13	10	76.9	2.8
運輸・倉庫業	27	17	63.0	5.2
サービス業	84	56	66.7	16.1
料理・飲食	17	10	58.8	2.6
旅館・ホテル	22	16	72.7	4.9
情報・事業	24	16	66.7	4.4
その他サービス業	21	14	66.7	4.1

I 国内景気動向の概要

国内景気BSI値はプラスに転じる

～ 観光需要により人流が増加するなど、経済活動正常化への期待強まる ～

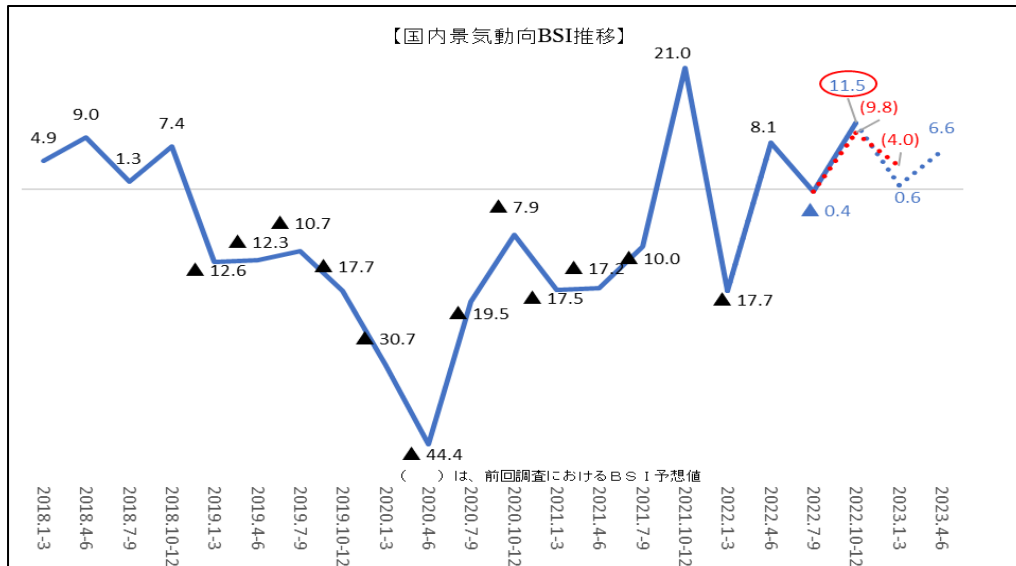
■ 国内景気動向《実績（2022年10～12月期）》

・今期の国内景気BSI値は11.5（前期実績▲0.4）と大幅に上昇した。

・10月から始まった全国旅行支援や、1日あたりの入国者数上限の撤廃による外国人観光客等の要因により人流が増加するなど、経済活動正常化への兆しが見られる中、建設業を除く全ての業種において、上昇基調で推移した。

■ 国内景気動向《今後の予想》

・今後の予想については、ウクライナ侵攻や米国のインフレ、中国のロックダウン等海外の経済動向への不安感や、全国旅行支援の期間・制度見直しなど先行きへの不透明感があるものの、2023年1～3月期は0.6とほぼ横ばいで推移し、4～6月期は6.6と、持ち直しへの期待感が見られる。



国内景気動向

2023年10～12月期 (実績)	2023年1～3月期 (見込)	2023年4～6月期 (見込)
11.5	0.6	6.6

《業種別 2022年10～12月期BSI値》

・10～12月期のBSI値は、小売業（30.1）、サービス業（13.7）、製造業（12.8）などの業種で上昇し、特に小売業は前期（▲9.4）から大きくプラスに転じた。今後の予測では、2023年1～3月期にかけて小売業などの業種で下降するものの、全体としてはほぼ横ばいを予測し、4～6月期にはほとんどの業種で再び上昇する見通し。

《規模別 2022年10～12月期BSI値》

・大企業（11.4）、中小企業（11.6）ともにプラスに転じた。今後の予測では、中小企業にやや遅れが見られるものの、大企業、中小企業ともに持ち直し気味に推移する見通し。

国内景気	実 績						予 測						
	2022年7～9月期			2022年10～12月期			2023年1～3月期			2023年4～6月期			
	B.S.I	上昇	下降	B.S.I	上昇	下降	B.S.I	上昇	下降	B.S.I	上昇	下降	
総 計	▲0.4	22.8	23.6	11.5	38.5	15.5	0.6	22.6	21.4	6.6	29.2	16.1	
業 種 別	製造業	1.4	23.8	21.1	12.8	39.4	13.9	5.6	28.2	17.1	7.3	29.7	15.1
	卸売業	▲2.4	22.0	26.8	7.8	35.5	20.0	2.2	22.2	17.8	8.9	28.9	11.1
	小売業	▲9.4	12.6	31.3	30.1	73.4	13.3	▲13.3	13.4	40.0	10.0	33.3	13.3
	建設業	▲12.1	10.3	34.5	▲1.9	11.1	14.8	▲5.6	11.1	22.2	1.9	25.9	22.2
	不動産業	4.6	36.4	27.3	11.1	33.3	11.1	20.0	40.0	0.0	0.0	11.1	11.1
	運輸・倉庫業	2.4	28.6	23.8	5.9	29.4	17.6	▲11.8	5.9	29.4	2.9	17.6	11.8
	サービス業	2.1	24.5	20.4	13.7	45.5	18.2	▲10.0	14.5	34.5	5.5	34.5	23.6
規 模	大企業	▲0.9	19.1	21.0	11.4	37.8	15.1	2.4	22.7	17.9	6.3	26.9	14.4
	中小企業	▲0.2	24.3	24.7	11.6	38.9	15.7	▲0.3	22.5	23.0	6.6	30.0	16.9

Ⅱ 自社業況（総合判断）の概要

自社業況BSI値は12.7に

～ 観光関連の業種を中心にBSI値が大きく上昇 ～

■ 自社業況（総合判断）《実績（2022年10～12月期）》

- ・ 今期の自社業況BSI値は12.7（前期実績▲2.0）と2021年10～12月期以来4期ぶりにBSI値が2桁のプラス値となった。
- ・ 需要期であることに加え、全国旅行支援等による観光客や、外出を控える意識の変化などで人流が大きく増加し、特に小売業やサービス業などの観光関連の業種でBSI値はプラスに転じた。

■ 自社業況《今後の予想》

- ・ 今後の予想については、急速な需要拡大による人手不足や、原材料（燃）料価格の高騰などによるマイナスの影響もあり、2023年1～3月期は▲2.4とマイナスに転じ、4～6月期も1.7と、足踏み状態の推移となる見通し。

自社業況（総合判断）

2023年10～12月期（実績） 12.7	2023年1～3月期（見込） ▲2.4	2023年4～6月期（見込） 1.7
--------------------------	------------------------	-----------------------

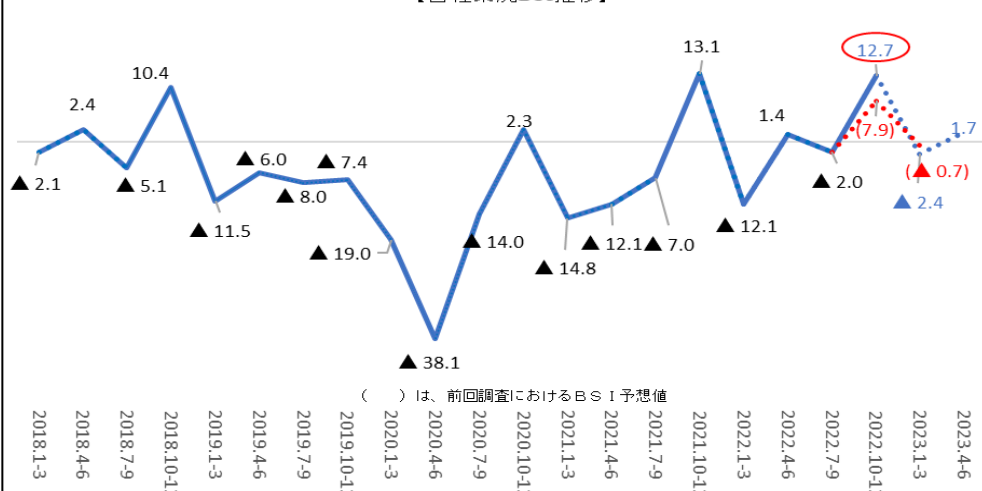
《業種別 2022年10～12月期BSI値》

- ・ 10～12月期のBSI値は、建設業（▲5.8）を除く全ての業種でプラスに転じ、特に小売業では40.0と大きく上昇した。今後、2023年1～3月期にかけては運輸・倉庫業（▲20.6）、小売業（▲16.7）などでマイナスを予測するものの、4～6月期では再び多くの業種で上昇する見込み。

《規模別 2022年10～12月期BSI値》

- ・ 大企業（15.1）、中小企業（11.6）ともにBSI値は上昇した。2023年4～6月期にかけて、大企業は底堅い動きを見せるものの、中小企業は一進一退で推移する見通し。

【自社業況BSI推移】



自社業況 （総合判断）	実 績						予 測						
	2022年7～9月期			2022年10～12月期			2023年1～3月期			2023年4～6月期			
	B.S.I	上昇	下降	B.S.I	上昇	下降	B.S.I	上昇	下降	B.S.I	上昇	下降	
総 計	▲2.0	23.2	27.1	12.7	41.4	16.1	▲2.4	23.0	27.8	1.7	24.5	21.1	
業 種 別	製造業	0.5	24.0	23.1	12.5	40.5	15.5	▲0.5	25.6	26.7	▲1.2	19.1	21.4
	卸売業	▲1.2	31.7	34.1	6.7	35.5	22.2	4.5	24.4	15.5	7.8	31.1	15.5
	小売業	▲18.8	12.5	50.0	40.0	80.0	0.0	▲16.7	13.4	46.7	6.7	20.0	6.7
	建設業	0.0	25.0	25.0	▲5.8	11.5	23.1	1.9	19.2	15.4	▲19.3	7.7	46.2
	不動産業	▲9.1	9.1	27.3	5.6	33.3	22.2	0.0	20.0	20.0	5.6	22.2	11.1
	運輸・倉庫業	▲7.2	9.5	23.8	14.7	41.2	11.8	▲20.6	11.8	52.9	8.8	29.4	11.8
	サービス業	▲4.1	24.4	32.6	19.7	53.6	14.3	▲7.2	21.4	35.7	11.6	44.7	21.5
規 模	大企業	0.5	25.3	24.3	15.1	41.5	11.3	4.7	31.1	21.7	4.4	27.9	19.2
	中小企業	▲3.0	22.4	28.4	11.6	41.4	18.2	▲5.6	19.3	30.4	0.7	23.2	21.9

Ⅲ 企業経営動向 概要

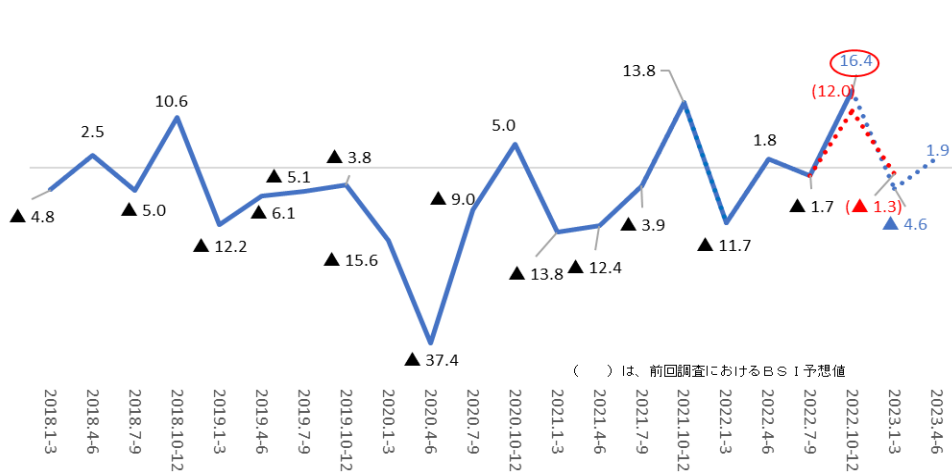
1 生産・売上高、工事施工高

2023年10~12月期(実績)	2023年1~3月期(見込)	2023年4~6月期(見込)
16.4	▲4.6	1.9

《2022年10~12月期BSI値》

- ・今期のBSI値は16.4とほぼ全ての業種で増加し、特に小売業(43.4)、サービス業(25.9)で大きく増加した。
- ・先行きは、2023年1~3月期は▲4.6、4~6月期は1.9と、一進一退の推移となり、業種別ではまだ模様期待感となる見込み。

【生産・売上高、工事施工高BSI推移】



生産・売上高 工事施工高	実績						予測					
	2022年7~9月期			2022年10~12月期			2023年1~3月期			2023年4~6月期		
	B.S.I	増加	減少	B.S.I	増加	減少	B.S.I	増加	減少	B.S.I	増加	減少
総計	▲1.7	22.8	26.1	16.4	47.1	14.4	▲4.6	22.6	31.8	1.9	26.5	22.7
業種別												
製造業	1.1	25.0	22.9	14.9	45.3	15.6	▲3.7	24.0	31.3	▲0.6	21.0	22.2
卸売業	1.2	31.0	28.6	11.1	40.0	17.8	0.0	20.0	20.0	8.9	31.1	13.3
小売業	▲12.5	18.8	43.8	43.4	86.7	0.0	▲23.3	6.7	53.3	10.0	33.3	13.3
建設業	▲5.2	17.2	27.6	5.6	25.9	14.8	11.1	33.3	11.1	▲22.2	3.7	48.1
不動産業	▲9.1	9.1	27.3	0.0	22.2	22.2	0.0	20.0	20.0	▲5.6	22.2	33.3
運輸・倉庫業	▲14.3	0.0	28.6	17.7	41.2	5.9	▲17.7	11.8	47.1	11.8	41.2	17.6
サービス業	▲2.1	24.5	28.6	25.9	64.3	12.5	▲10.7	23.2	44.6	11.9	45.5	21.8
規模別												
大企業	2.3	28.0	23.4	18.9	48.1	10.4	2.4	32.1	27.4	▲0.9	23.3	25.2
中小企業	▲3.4	20.6	27.3	15.3	46.7	16.1	▲7.6	18.5	33.7	3.1	27.8	21.6

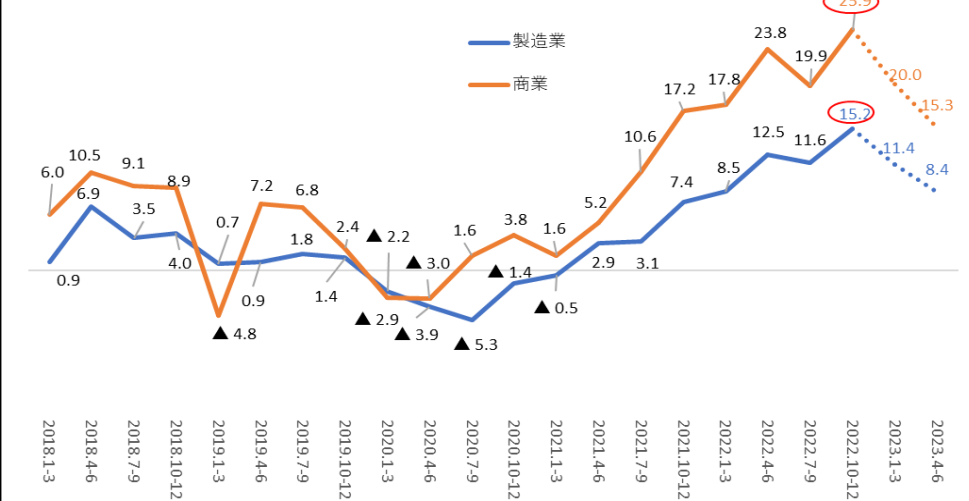
2 製・商品・サービス・請負価格

2023年10~12月期(実績)	2023年1~3月期(見込)	2023年4~6月期(見込)
17.4	12.5	10.6

《2022年10~12月期BSI値》

- ・今期のBSI値は、商業(25.9)、製造業(15.2)ともに、再び上昇基調が強まった。
- ・先行きは、上昇幅はやや和らぐものの、製造業・商業ともに上昇基調が続く見通し。

【製・商品・サービス・請負価格BSI推移】



製・商品・ サービス・ 請負価格	実績						予測					
	2022年7~9月期			2022年10~12月期			2023年1~3月期			2023年4~6月期		
	B.S.I	上昇	下降	B.S.I	上昇	下降	B.S.I	上昇	下降	B.S.I	上昇	下降
総計	11.0	26.8	4.8	17.4	37.6	2.9	12.5	28.5	3.5	10.6	24.1	2.9
業種別												
製造業	11.6	26.2	3.1	15.2	33.7	3.3	11.4	24.4	1.7	8.4	19.6	2.8
卸売業	21.5	52.4	9.5	24.5	55.6	6.7	21.1	44.4	2.2	17.1	36.4	2.3
小売業	15.7	31.3	0.0	30.0	60.0	0.0	16.7	40.0	6.7	10.0	20.0	0.0
建設業	12.1	31.0	6.9	18.5	37.0	0.0	18.5	40.7	3.7	9.3	33.3	14.8
不動産業	11.1	22.2	0.0	0.0	12.5	12.5	11.1	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0
運輸・倉庫業	▲5.3	0.0	10.5	6.3	12.5	0.0	9.4	18.8	0.0	3.2	6.3	0.0
サービス業	4.1	14.3	6.1	20.6	41.1	0.0	6.4	23.6	10.9	17.3	34.5	0.0
規模別												
大企業	8.6	22.9	5.7	18.0	38.7	2.8	9.9	23.6	3.8	7.6	20.0	4.8
中小企業	12.0	28.4	4.4	17.2	37.2	2.9	13.7	30.7	3.3	11.9	25.9	2.1

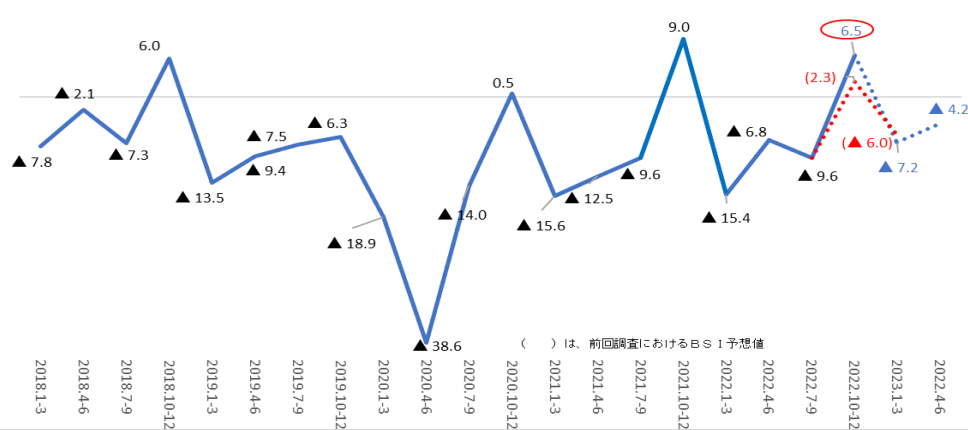
3 経常利益

2023年10~12月期(実績) 6.5	2023年1~3月期(見込) ▲7.2	2023年4~6月期(見込) ▲4.2
-------------------------	------------------------	------------------------

《2022年10~12月期BSI値》

- ・今期のBSI値は6.5と、2021年10~12月期以来4期ぶりにプラスに転じ、特に小売業(23.3)やサービス業(20.0)で大きく増加した。
- ・先行きは、2023年1~3月期(▲7.2)、4~6月期(▲4.2)と、ほぼ全ての業種で再びマイナス基調で推移する見通し。

【経常利益BSI推移】



経常利益	実績						予測						
	2022年7~9月期			2022年10~12月期			2023年1~3月期			2023年4~6月期			
	B.S.I	増加	減少	B.S.I	増加	減少	B.S.I	増加	減少	B.S.I	増加	減少	
総計	▲9.6	15.2	34.3	6.5	34.4	21.4	▲7.2	19.1	33.5	▲4.2	18.4	26.8	
業種別	製造業	▲7.9	15.8	31.6	5.9	31.7	20.0	▲5.9	18.9	30.6	▲4.3	13.0	21.5
	卸売業	▲7.3	22.0	36.6	▲1.1	26.7	28.9	▲3.4	20.0	26.7	▲4.5	17.8	26.7
	小売業	▲21.9	6.3	50.0	23.3	53.3	6.7	▲20.0	6.7	46.7	▲3.4	20.0	26.7
	建設業	▲19.7	3.6	42.9	▲14.0	12.0	40.0	▲4.0	20.0	28.0	▲30.0	0.0	60.0
	不動産業	▲13.7	9.1	36.4	0.0	22.2	22.2	▲5.0	20.0	30.0	▲5.6	22.2	33.3
	運輸・倉庫業	▲9.5	4.8	23.8	8.8	29.4	11.8	▲20.6	5.9	47.1	3.0	23.5	17.6
	サービス業	▲7.2	22.4	36.7	20.0	58.2	18.2	▲9.3	25.9	44.4	5.5	41.8	30.9
	規模	大企業	▲4.7	20.6	29.9	10.9	39.6	17.9	▲0.4	28.3	29.2	▲3.4	20.4
中小企業		▲11.6	12.9	36.1	4.6	32.1	22.9	▲10.2	15.0	35.4	▲4.6	17.5	26.7

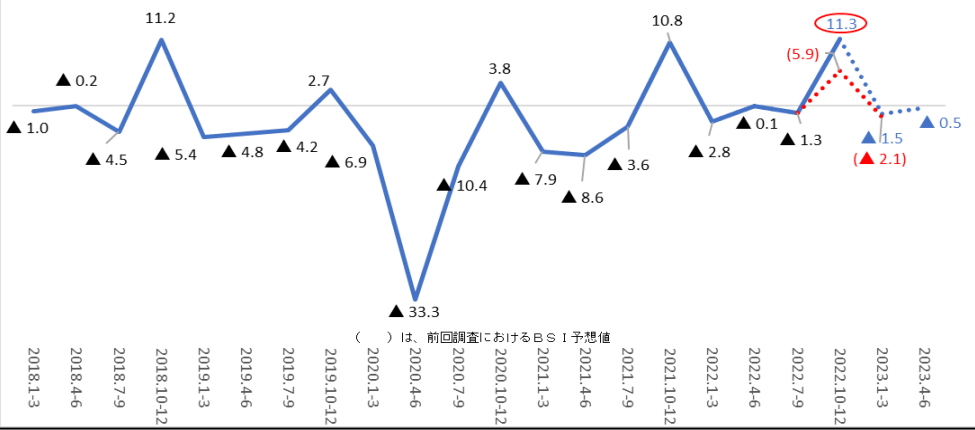
4 所定外労働時間

2023年10~12月期(実績) 11.3	2023年1~3月期(見込) ▲1.5	2023年4~6月期(見込) ▲0.5
--------------------------	------------------------	------------------------

《2022年10~12月期BSI値》

- ・今期のBSI値は11.3と、不動産業を除く全ての業種でプラスとなった。
- ・先行きは、業種によって期待感に差はあるものの、全体としては、2023年4~6月期にかけて再びマイナス基調で推移する見通し。

【所定外労働時間BSI推移】



所定外労働時間	実績						予測						
	2022年7~9月期			2022年10~12月期			2023年1~3月期			2023年4~6月期			
	B.S.I	増加	減少	B.S.I	増加	減少	B.S.I	増加	減少	B.S.I	増加	減少	
総計	▲1.3	12.0	14.6	11.3	29.0	6.4	▲1.5	15.3	18.2	▲0.5	14.2	15.1	
業種別	製造業	▲1.9	9.5	13.2	9.7	26.1	6.7	0.0	15.0	15.0	▲1.1	12.3	14.5
	卸売業	1.2	11.9	9.5	2.2	13.3	8.9	3.4	11.1	4.4	0.0	8.9	8.9
	小売業	▲3.1	6.3	12.5	23.4	46.7	0.0	▲20.0	0.0	40.0	0.0	6.7	6.7
	建設業	9.0	28.6	10.7	17.3	34.6	0.0	13.5	34.6	7.7	▲11.6	11.5	34.6
	不動産業	4.6	9.1	0.0	▲5.6	0.0	11.1	5.0	10.0	0.0	▲5.6	0.0	11.1
	運輸・倉庫業	▲11.9	4.8	28.6	18.8	37.5	0.0	▲6.3	12.5	25.0	6.3	18.8	6.3
	サービス業	▲3.0	18.0	24.0	18.5	46.3	9.3	▲11.8	16.4	40.0	5.6	29.6	18.5
	規模	大企業	▲1.4	13.2	16.0	10.5	25.7	4.8	3.4	21.0	14.3	▲2.4	13.5
中小企業		▲1.2	11.6	13.9	11.7	30.4	7.1	▲3.5	12.8	19.8	0.4	14.6	13.8

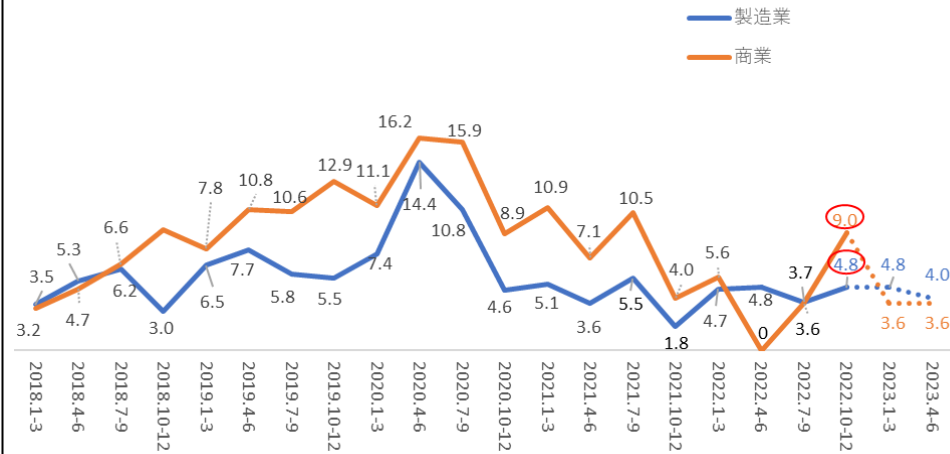
5 製・商品在庫

2023年10~12月期 (実績)	2023年1~3月期 (見込)	2023年4~6月期 (見込)
5.8	4.5	3.9

《2022年10~12月期BSI値》

- ・今期のBSI値は5.8と過剰傾向で推移した。商業は前期に比べ幾分過剰感が強まり、特に小売業（11.6）で過剰感が増した。
- ・先行きは、製造業、商業ともに、2023年4~6月期にかけて過剰感が続くものの、過剰度合いはやや緩和する見込み。

【製・商品在庫BSI推移】



製・商品在庫	実績						予測						
	2022年7~9月期			2022年10~12月期			2023年1~3月期			2023年4~6月期			
	B.S.I	過剰	不足	B.S.I	過剰	不足	B.S.I	過剰	不足	B.S.I	過剰	不足	
総計	3.7	16.4	9.0	5.8	20.4	8.9	4.5	14.5	5.5	3.9	11.5	3.8	
業種別	製造業	3.7	15.4	8.0	4.8	19.0	9.5	4.8	14.5	5.0	4.0	10.7	2.8
	卸売業	2.5	19.5	14.6	8.2	25.6	9.3	3.5	16.3	9.3	3.5	16.3	9.3
	小売業	6.7	20.0	6.7	11.6	23.1	0.0	3.9	7.7	0.0	3.9	7.7	0.0
規模	大企業	0.8	15.9	14.3	4.8	20.6	11.1	0.8	9.5	7.9	1.6	9.7	6.5
	中小企業	4.7	16.6	7.2	6.1	20.3	8.1	5.8	16.3	4.7	4.7	12.2	2.9

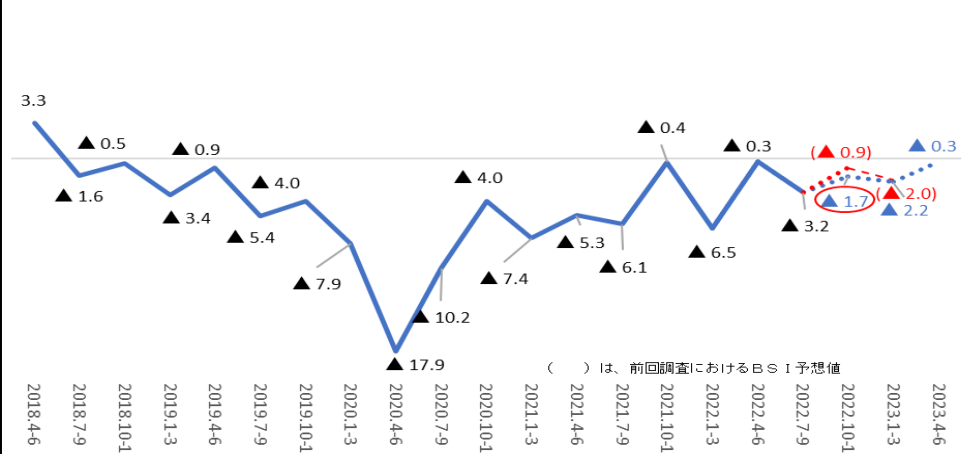
6 資金繰り

2023年10~12月期 (実績)	2023年1~3月期 (見込)	2023年4~6月期 (見込)
▲1.7	▲2.2	▲0.3

《2022年10~12月期BSI値》

- ・今期のBSI値は▲1.7と、小売業（13.3）、サービス業（3.6）では改善したものの、全体としては悪化基調で推移した。
- ・先行きは、2023年4~6月にかけて、一部業種で改善がみられるものの、全体としてはマイナス基調で推移する見通し。

【資金繰りBSI推移】



資金繰り	実績						予測						
	2022年7~9月期			2022年10~12月期			2023年1~3月期			2023年4~6月期			
	B.S.I	改善	悪化	B.S.I	改善	悪化	B.S.I	改善	悪化	B.S.I	改善	悪化	
総計	▲3.2	5.3	11.7	▲1.7	8.9	12.3	▲2.2	5.7	10.0	▲0.3	8.3	8.9	
業種別	製造業	▲2.9	5.8	11.5	▲4.2	5.5	13.8	0.3	6.6	6.1	▲1.7	5.0	8.3
	卸売業	▲4.8	2.4	11.9	▲3.4	4.4	11.1	▲6.7	2.2	15.6	▲4.5	6.7	15.6
	小売業	▲9.4	6.3	25.0	13.3	33.3	6.7	▲3.3	6.7	13.3	▲6.7	0.0	13.3
	建設業	▲3.6	3.6	10.7	▲2.0	3.8	7.7	0.0	7.7	7.7	1.9	11.5	7.7
	不動産業	4.6	9.1	0.0	▲5.6	0.0	11.1	10.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	運輸・倉庫業	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	サービス業	▲4.0	8.0	16.0	3.6	21.4	14.3	▲9.8	3.6	23.2	8.1	25.0	8.9
規模	大企業	▲0.9	5.7	7.5	0.5	9.3	8.4	▲3.3	2.8	9.3	1.9	9.4	5.7
	中小企業	▲4.2	5.2	13.5	▲2.7	8.7	14.0	▲1.7	7.0	10.3	▲1.2	7.9	10.3

Ⅳ 当面の経営上の問題点

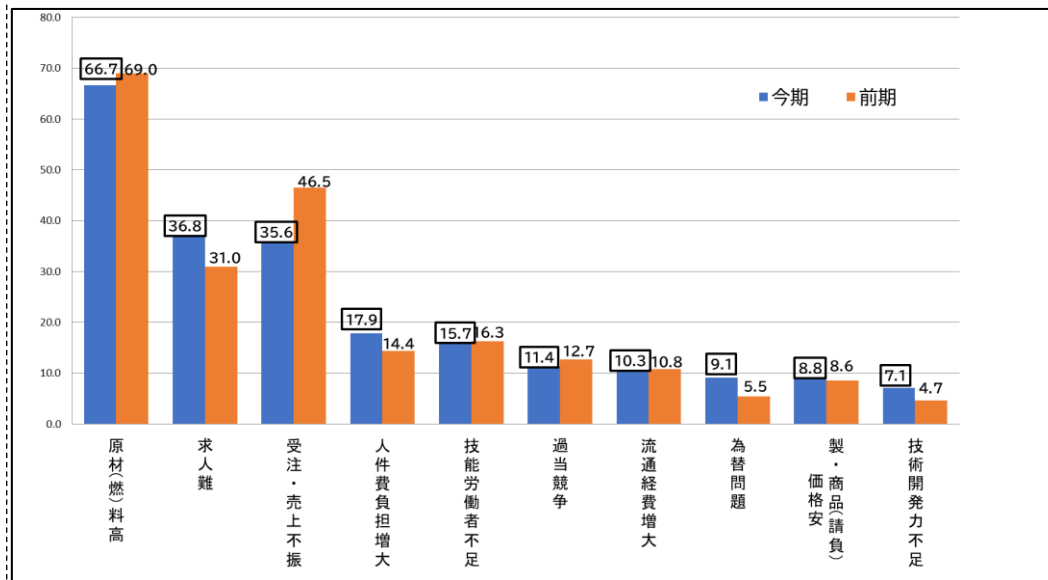
調査結果のまとめ

5期連続で「原材(燃)料高」が第1位、「求人難」も増加し第2位に

■ 当面の経営上の問題点

- ・「原材(燃)料高 (66.7%)」が5期連続の第1位となった。また、第2位に「求人難」(前期3位)、第4位に「人件費負担増大」(前期5位)が繰り上がるなど、人材に関する問題点への回答数が増加した。

- 第1位は「原材(燃)料高」(66.7%) (前期実績69.0%)
- 第2位は「求人難」(36.8%) (前期実績31.0%)
- 第3位は「受注・売上不振」(35.6%) (前期実績46.5%)
- 第4位は「人件費負担増大」(17.9%) (前期実績14.4%)
- 第5位は「技能労働者不足」(15.7%) (前期実績16.3%)



《業種別》

- ・運輸・倉庫業では「原材(燃)料高」の回答が最も多く、前期よりさらに上昇し、88.2%となった。
- ・「求人難」は、観光需要増加の影響が大きいサービス業(60.7%)では第1位、運輸・倉庫業(47.1%)では第2位となっている。「人件費負担増大」も全体では第4位に入るなど人材不足等に関する課題は前回に比べ回答数が増加した。
- ・各回答企業からのコメントでは、製造業や卸売業などを中心に、半導体を始めとする部品不足や納期遅延といった問題や、価格転嫁難といった問題も挙げられた。

《規模別》

- ・第1位から第3位の回答結果と回答率は、大企業と中小企業で差は見られず、それぞれ規模を問わない経営課題となっている。

当面の経営上の問題点	第1位 (%)		第2位 (%)		第3位 (%)		
	問題点	割合	問題点	割合	問題点	割合	
総計	原材(燃)料高	66.7	求人難	36.8	受注売上不振	35.6	
規模別	大企業	原材(燃)料高	66.4	求人難	36.4	受注売上不振	33.6
	中小企業	原材(燃)料高	66.8	求人難	36.9	受注売上不振	36.5
業種別	製造業	原材(燃)料高	79.0	受注売上不振	31.5	求人難	30.9
	卸売業	原材(燃)料高	60.0	受注売上不振	35.6	求人難	33.3
	小売業	受注売上不振	73.3	原材(燃)料高	46.7	求人難	33.3
	建設業	原材(燃)料高	55.6	技能労働者不足	51.9	受注売上不振	37.0
	不動産業	受注売上不振	40.0	技能労働者不足	30.0	原材(燃)料高	20.0
	運輸・倉庫業	原材(燃)料高	88.2	求人難	47.1	受注売上不振	35.3
	サービス業	求人難	60.7	原材(燃)料高	44.6	受注売上不振	37.5

V 企業の現況

原材料価格の高騰は止まらず ～ B S I 値は4期連続で40を超える ～

■ 操業率（製造業）≪2022年10～12月期≫

「上昇」 28.1%（前期実績17.5%）

「下降」 10.2%（前期実績11.0%）

B S I 値 9.0（前期実績 2.8）

- ・上昇と回答した企業はやや増加し、B S I 値は9.0と前期に引き続き上昇した。

■ 受注残（製造業）≪2022年10～12月期≫

「増加」 24.4%（前期実績22.5%）

「減少」 15.2%（前期実績17.3%）

B S I 値 4.6（前期実績 2.6）

- ・業種によって期待感に差があるものの、全体としてはB S I 値は4.6とプラスに転じた。

■ 受注高（建設業）≪2022年10～12月期≫

「増加」 20.8%（前期実績24.1%）

「減少」 29.2%（前期実績27.6%）

B S I 値 ▲4.2（前期実績▲1.8）

- ・公共事業、民間工事ともに下降基調が続き、B S I 値は▲4.2となった。

■ 原材料価格（製造業、建設業）≪2022年10～12月期≫

「上昇」 88.0%（前期実績86.4%）

「下降」 0.5%（前期実績 0.5%）

B S I 値 43.8（前期実績43.0）

- ・原材料価格のB S I 値は43.8となり、2022年1～3月期調査から4期連続でB S I 値は40超えとなった。

	2020年	2021年				2022年				
	10～12月期	1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期	
操業率（製造業）	3.6	▲ 2.0	▲ 1.8	1.3	12.4	▲ 0.9	1.7	2.8	9.0	
受注残（製造業）	▲ 3.2	▲ 6.1	▲ 2.4	0.8	8.0	▲ 0.6	▲ 1.4	2.6	4.6	
受注高（建設業）	▲ 14.8	▲ 22.9	▲ 21.2	0.0	▲ 5.2	▲ 10.0	▲ 9.5	▲ 1.8	▲ 4.2	
内	公共工事	▲ 15.6	▲ 7.7	▲ 18.5	▲ 18.0	▲ 3.6	▲ 16.0	▲ 8.4	▲ 6.9	▲ 8.7
	民間工事	▲ 8.6	▲ 19.3	▲ 14.3	▲ 8.0	▲ 5.0	▲ 10.0	▲ 8.4	▲ 5.2	▲ 8.7
原材料価格（製造業、建設業）	7.8	15.5	23.8	29.3	39.0	40.4	46.3	43.0	43.8	

VI 調査企業からのコメント

- 原材料を輸入しているため、円安が課題。(繊維製造)
- 電気・ガス等のエネルギー費や薬品等材料費の高騰が問題であり、加工賃に反映できていない。(染色)
- 半導体不足により、自動車メーカーの生産調整が続いている。(鉄鋼)
- 景気が後退ないし減速する場合、エネルギー費などの物価上昇に耐えられないのではないか、という不安がある。(非鉄)
- 先行き不透明感が強い中で、他社の動向が気にかかる。(一般機械製造)
- 零細企業の人材確保の方法が分からない。様々な求人媒体があるが、費用対効果に見合わない。(電気機械製造)
- 生産部門は未だ部品逼迫やコロナ感染による欠員で不安定な状況が続いている。(精密機械製造)
- 最低賃金上昇のスピードが速く、生産性・技術力の向上や売上高・経常利益の向上と比例していない。(食料品卸)
- 来年はより一層景気判断が難しくなると予想。仕入商品の値上がりはまだまだ続く中、経営の舵取りが大事になる。(小売業)
- 仕入れ価格の上昇に伴い商品を値上げしたが、そのために一定数顧客離れが生じた可能性がある。(小売業)
- 防衛力強化に伴う法人税、所得税の増加が懸念される。(建設業)
- 建設業界そのものの低迷に加え、資材等のコストアップによる利益確保難や給与面での不安要素など、若年層にも業界としての人気が無いため、先行きが非常に不透明になっており、今後も難しい状況が続くと予想される。(建設業)
- 電気代の高騰、人件費の増加(最低賃金アップ、社会保険加入拡大、雇用保険料アップ)が収益に影響している。(運輸・倉庫業)
- 全国旅行支援等により観光需要が回復傾向にあるものの、原材料価格、水・光熱費の高騰の影響を受け、依然として厳しい状況が続いており、継続的な観光支援施策の実施を希望。(旅館・ホテル)
- 今は観光客が戻ってきたが、コロナ時に抱えた借り入れの返済に係る軽減策が必要と考えている。(旅館・ホテル)
- インバウンドの入国規制で顧客を喪失したため融資等を受けたが、返済に係る負担が大きく、今後の事業継続及び展開の足枷となっている。(その他サービス)

Ⅶ 新卒採用活動について

付帯調査①

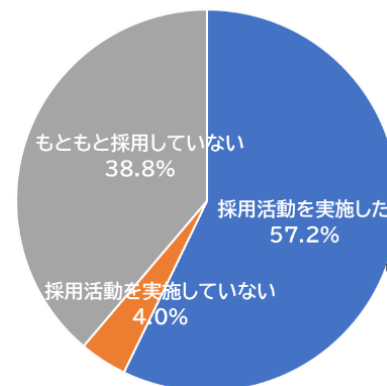
新卒採用活動を実施した企業は57.2%とやや増加 予定どおりの採用ができた企業は減少

1 新卒採用(2023年4月入社)の採用活動状況

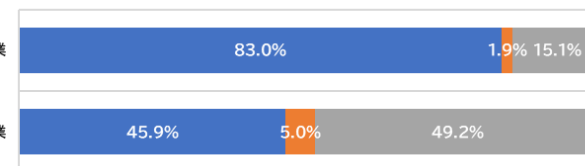
<単一回答>

- ・新卒採用活動については、回答企業の57.2%が「採用活動を実施した」と回答しており、昨年度同時期の調査結果(50.1%)よりやや増加した。また、「採用活動を実施していない」企業は4.0%と、昨年度(14.2%)より減少した。
- ・規模別では、「実施した」と回答した企業は中小企業で45.9%(昨年度40.2%)、大企業で83.0%(昨年度75.0%)と、ともにやや増加した。
- ・業種別では、特に小売業(78.6%)、建設業(77.8%)において、「実施した」と回答した企業が多い結果となった。一方、製造業(6.1%)や運輸・倉庫業(5.9%)など、少数ながら「採用活動を実施していない」という企業もあったが、いずれの業種も昨年度に比べて減少した。

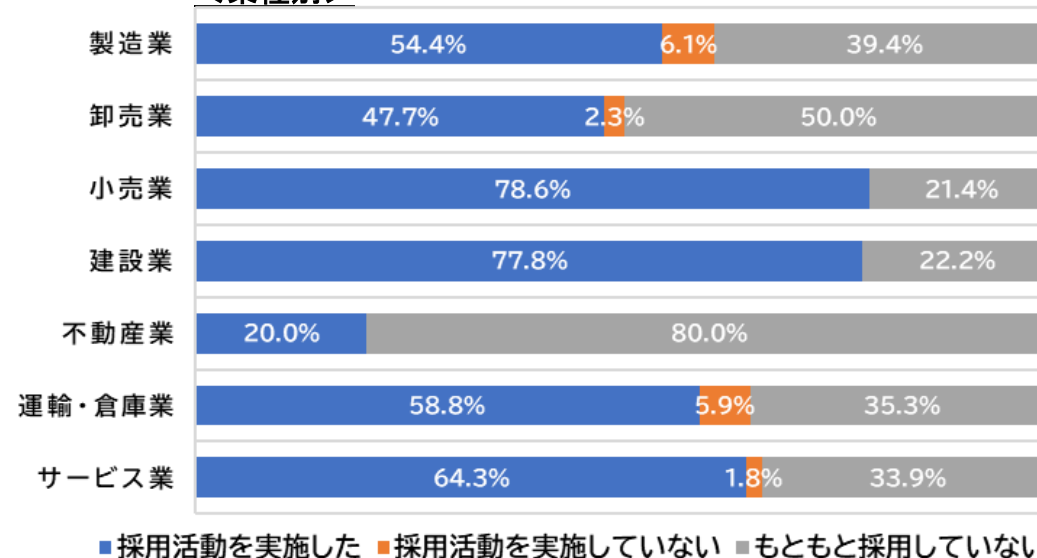
新卒(2023.4月入社)の採用活動状況



<規模別>



<業種別>



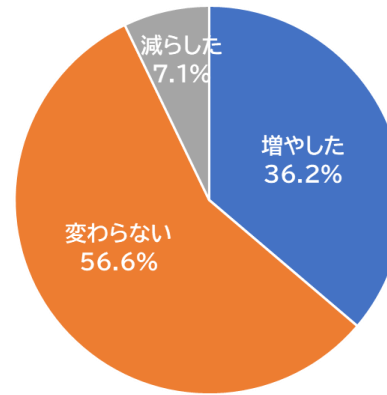
2 今年度(2022年度)と比較した来年度(2023年度)の新卒採用の予定人数

- ・第1問で「実施した」と回答した企業のうち、来年度の採用の予定人数について、半数以上は「変わらない」と回答したが、「増やした」と回答した企業は36.2%と、昨年度(25.0%)より増加した。
- ・規模別では、大企業で「増やした」と回答した企業が43.2%と昨年度(20.2%)から増加し、中小企業の回答率を少し上回った。
- ・業種別では、不動産業(50.0%)、卸売業(42.9%)、製造業(39.6%)などで「増やした」と回答した企業が目立った。

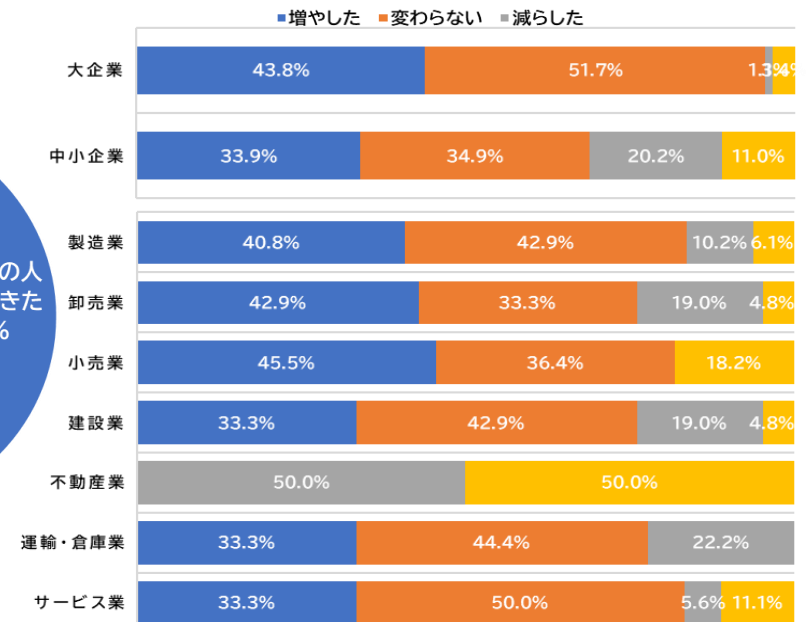
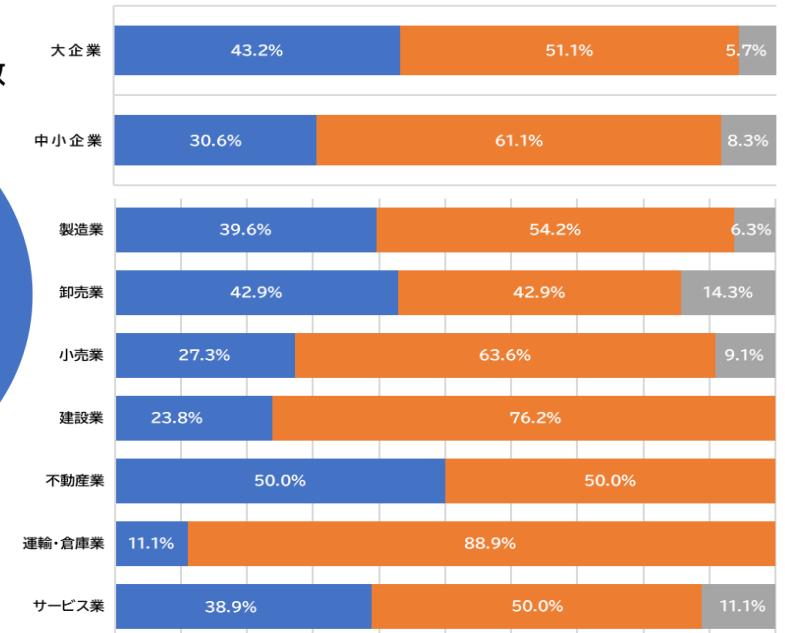
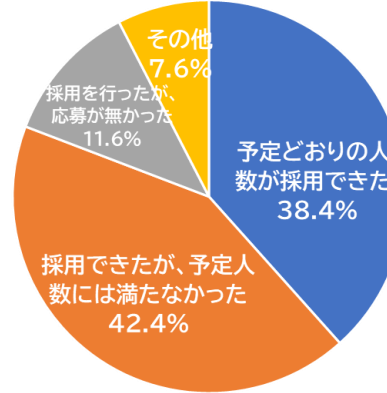
3 新卒採用の充足状況

- ・第1問で「実施した」と回答した企業のうち、「予定どおりの人数が採用できた」と回答した企業は38.4%と、昨年度(50.5%)より減少した。また、「採用できたが、予定人数に満たなかった」「採用を行ったが、応募が無かった」など、採用が予定どおりにできなかった企業は54.0%と、昨年度(45.7%)から増加した。
- ・その他コメントでは、「応募はあったが、採用に至らなかった」、「内定辞退があった」、「経営状況を鑑み、来年度の採用は見送った」、「新卒採用を見送り、中途採用を予定している」といった意見があった。

今年度と比較した
来年度の新卒採用予定人数



新卒採用の充足状況



■ 予定どおりの人数が採用できた ■ 採用できたが、予定人数には満たなかった ■ 採用を行ったが、応募が無かった ■ その他

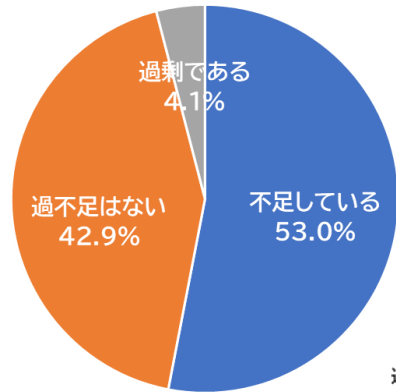
付帯調査②

正規雇用者は5割以上、非正規雇用者は3割程度の企業が不足と回答 採用にあたっては応募者の少なさや人材マッチングのズレが課題に

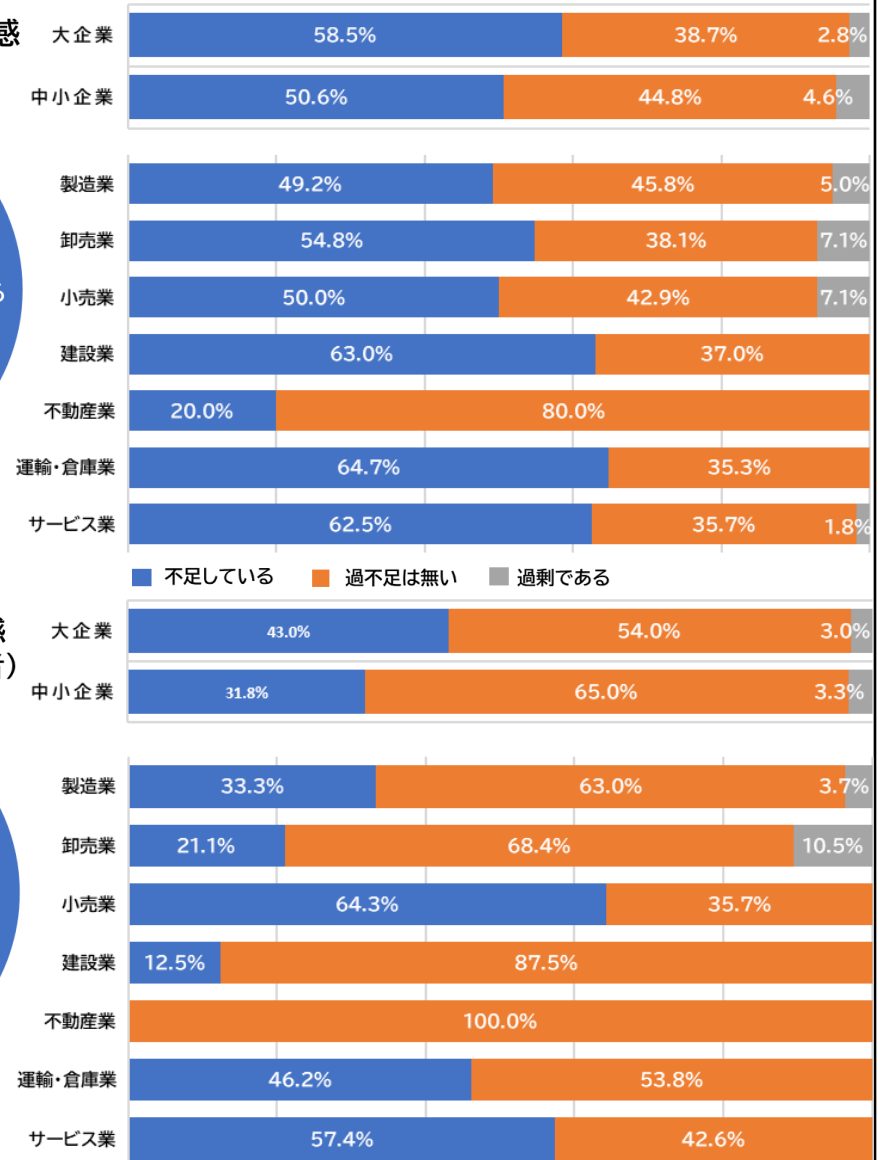
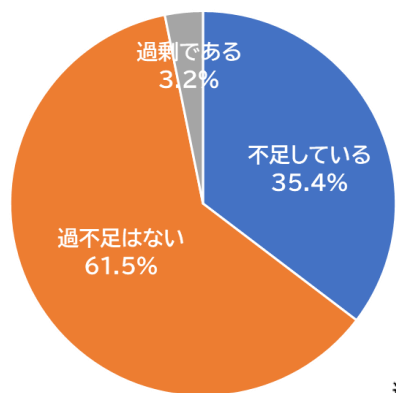
1 現行の雇用形態ごとの充足感（2022年11月時点）

- 雇用形態ごとの充足感について、正規雇用者が「不足している」と回答したのは53.0%と、半数以上の企業で正規雇用者が不足していた。一方、非正規雇用者が「不足している」と回答したのは35.4%と、回答の3割程度に留まった。
- 業種別に見ると、正規雇用者が「不足している」と回答したのは運輸・倉庫業（64.7%）が最も多く、次いで建設業（63.0%）、サービス業（62.5%）となった。非正規雇用者の不足感の小売業（64.3%）が最も多く、次いでサービス業（57.4%）、運輸・倉庫業（46.2%）となった。
- 小売業では、正規雇用者の不足感（50.0%）よりも非正規雇用者の不足感（64.3%）が強く、建設業では正規雇用者の不足感（63.0%）が非正規雇用者の不足感を（12.5%）を大きく上回るなど、業種における雇用形態の特徴や課題による差が見られる。

現行の雇用形態ごとの充足感
（正規雇用者）



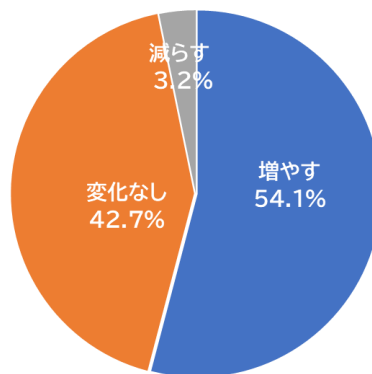
現行の雇用形態ごとの充足感
（パート・アルバイト等 非正規雇用者）



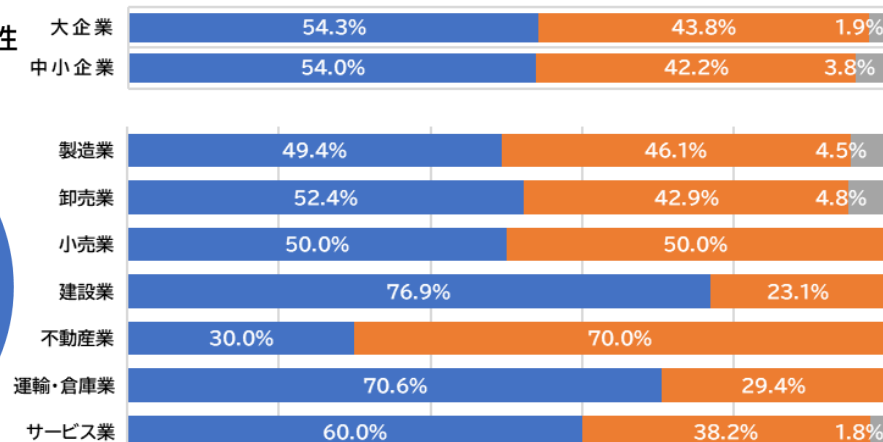
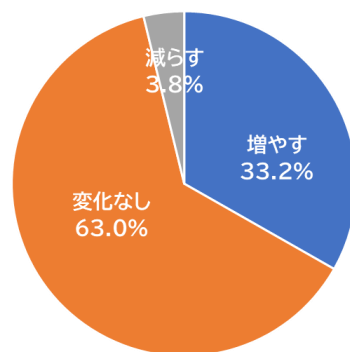
2 今後の雇用・採用計画の方向性

- ・今後の雇用・採用計画について、正規雇用者を「増やす」と回答した企業は54.1%、非正規雇用者を「増やす」と回答した企業は33.2%となった。
- ・業種別に見ると、正規雇用者を「増やす」と回答したのは建設業（76.9%）が最も多く、次いで運輸・倉庫業（70.6%）、サービス業（60.0%）となった。非正規雇用者では運輸・倉庫業（53.8%）が最も多く、次いでサービス業（53.7%）、小売業（50.0%）となった。

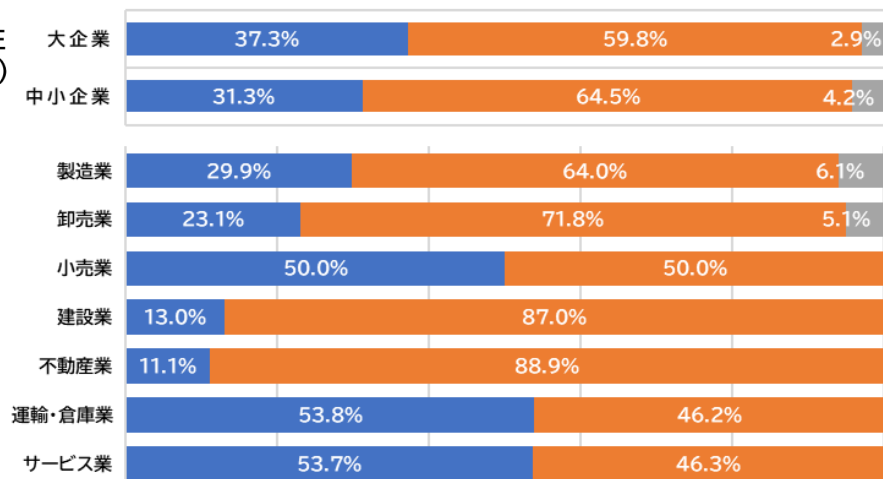
今後の雇用・採用計画の方向性
(正規雇用者)



今後の雇用・採用計画の方向性
(パート・アルバイト等 非正規雇用者)



■ 増やす ■ 過不足無し ■ 減らす



※今後の雇用・採用計画の方向性

<増減の理由：コメント>

○ 増加の要因

- ・退職者（定年退職、早期離職、コロナ禍での人員整理等）の補充
- ・20～30代の若手社員（技術者含む）が手薄なため
- ・新規事業開始や事業拡大

○ 減少の理由

- ・コロナの影響により業績の回復が見込めないため

- ・受注、需要が増加したため

- ・経費削減のため、正規雇用を削減し非正規雇用を増加
- ・短時間労働を希望する人が増えているため、非正規雇用を増加

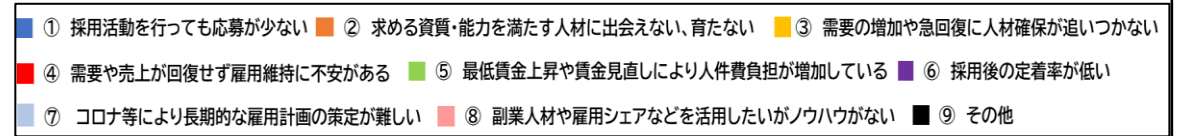
- ・先行き不透明なので、出来るだけ経費を減らしたい

3 雇用・人材確保における課題<複数回答>

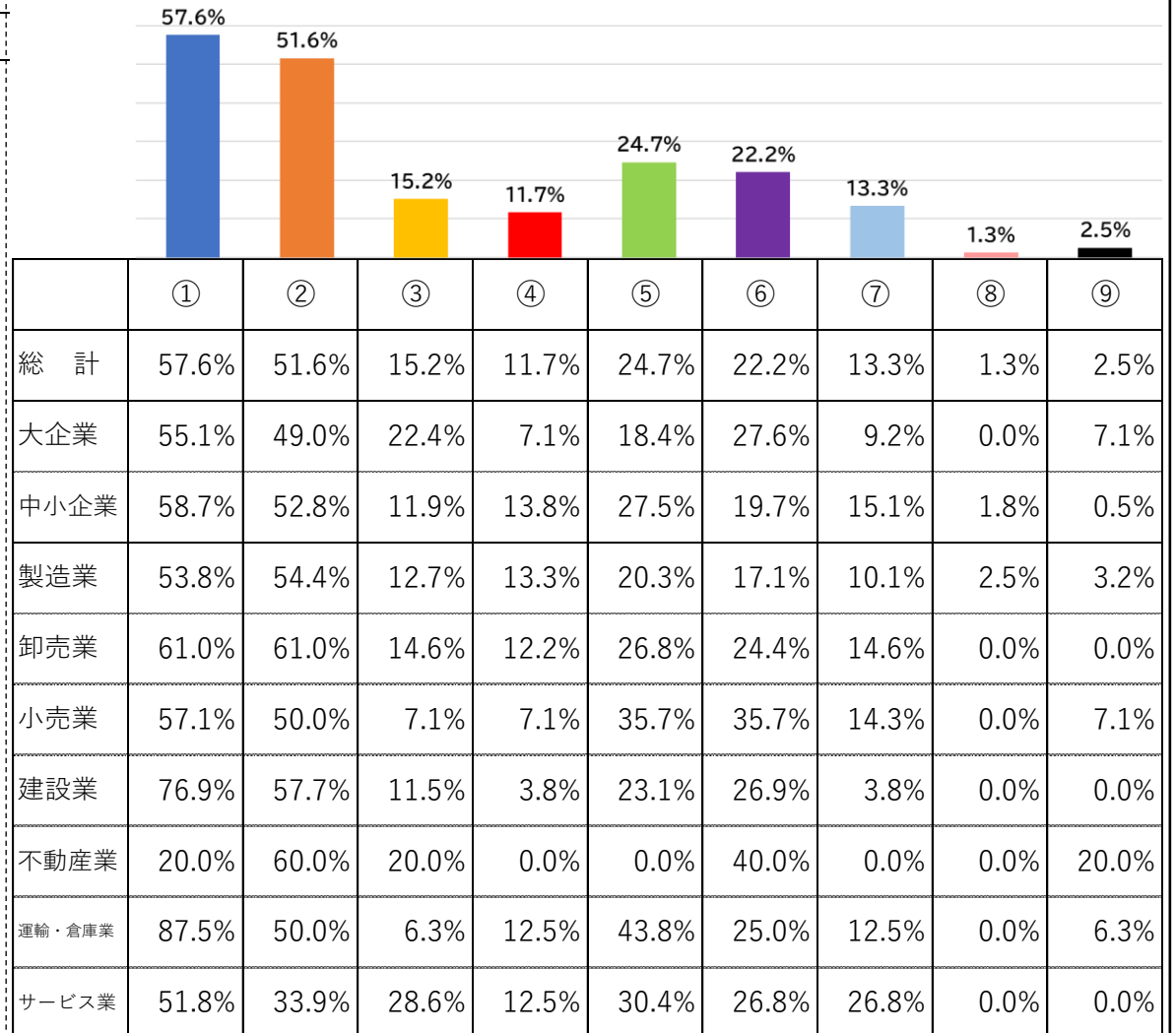
・雇用・人材確保の課題は、回答数が多い順に下記のとおりとなった。

- 第1位 「①採用活動を行っても応募が少ない」(57.6%)
- 第2位 「②求める資質・能力を満たす人材に出会えない、育たない」(51.6%)
- 第3位 「⑤最低賃金上昇や賃金見直しにより人件費負担が増加している」(24.7%)
- 第4位 「⑥採用後の定着率が低い」(22.2%)
- 第5位 「③需要の増加や急回復に人材確保が追いつかない」(15.2%)

- ・「①採用活動を行っても応募が少ない」、「②求める資質・能力を満たす人材に出会えない、育たない」の上位2つはどちらも回答企業の半数が選択しており、募集をかけても人が集まらない、人材マッチングが上手くいかない等の状況に企業が苦慮していることが推察される。
- ・「⑤最低賃金上昇や賃金見直しにより人件費負担が増加している」は24.7%で第3位と、人材確保におけるコスト増が課題の上位となった。
- ・業種別に見ると、人手不足が続く建設業、運輸・倉庫業では、①の応募の少なさを課題と考える企業が特に多いほか、非正規雇用者の不足感が強い小売業、運輸・倉庫業、サービス業などでは、⑤の人件費負担増加に関する回答が多い結果となった。
- ・「⑨その他」のコメントでは、「特に中途採用において求める人材の確保が難しい」、「理系の就職希望者が少ない」、「転職サイトを利用した離職者が増えることを懸念する」、といった意見が寄せられた。



雇用・人材確保における課題<複数回答>



4 自社・業界の具体的な課題や必要な支援施策について<自由記述>

- ・特に新卒採用について、男子学生へのPR・認知が必要と感じている。(繊維製造)
- ・OJT だけの教育では人材が育たないため、何か業界のモデルになるような教育の場を提供してほしい(非鉄)
- ・BtoB 企業なので、学生の認知度が低い(一般機械製造)
- ・生産現場における雇用確保が問題。中途採用向けの企業説明会の実施などの支援策に期待したい(出版・印刷)
- ・需給のバランスを考慮して雇用計画を策定すべきだが、一方で「人材が宝」という観点のもと、幹部候補生の育成や発見をすることも重要(食料品卸)
- ・和装業界特有の展示会での催事販売は土日を含む形で行われることが多く、休日出勤が多いことから若手の営業職が定着しない(繊維卸)
- ・どの業界にも言えることだが、新人教育がとても難しい世の中になってきた。セミナーなどがもっと安価で利用できるようになれば(小売業)
- ・地域的に技術者・求職者が少ないため、政治による対策が必要と考える(建設業)
- ・そもそも技術系の応募が少ないため、文系の学生を技術者に育てる努力をしているが、技術者としてのモチベーションが低く、育たない(建設業)
- ・サービス業に対する学生等のイメージが悪くなり、採用活動が厳しくなっている(旅館・ホテル)
- ・業界に対する価格の相場が低すぎる。また、警備業を対象とした補助金・助成金等の種類が少ない(その他サービス業)

卷末資料

調査対象業種の主要製・商品（営業内容）

食料品	……………	清酒、パン、洋菓子、和菓子、調味料等	出版・印刷	……………	印刷・製本、出版、紙製品等
繊維	……………	正絹着尺、帯地等	その他製造業	……………	毛皮、洋傘、マネキン、ゲーム機器、扇子、薫香等
染色	……………	機械染色整理、スクリーン染色、型染友禅、手描友禅等	食料品卸	……………	清酒、洋酒、洋菓子、和菓子、調味料、砂糖、缶詰等
繊維製品	……………	ネクタイ、肌着、レース、リボン、クロス等	繊維卸	……………	白生地、染呉服、帯地、和装小物等
化学・ゴム	……………	界面活性剤、染料、顔料、医薬品、ゴム等	機械金属卸	……………	自動車、家電製品、鋼材、工具、電気機器、工作機械等
窯業・土石	……………	電磁気、砥石、ガラス、生コンクリート、セメント等	小売業	……………	百貨店、スーパー、専門店等
鉄鋼	……………	鉄鉄铸件等	建設業	……………	総合工事業等
非鉄	……………	伸銅品、黄銅棒、アルミ合金、鍍金、金属加工等	不動産業	……………	不動産賃貸、建売、土地売買、代理業・仲介業等
一般機械	……………	車体、内燃機関、繊維・染色機械、工作機械等	運輸・倉庫業	……………	鉄道、道路旅客運送、貨物運送、倉庫業等
電気機械	……………	配電板、配線板、スイッチ、コンデンサ、電池、電子部品等	料理・飲食	……………	料理・飲食（観光地）等
精密機械	……………	計量機、分析機、試験機、レントゲン、医療機器等	旅館・ホテル	……………	旅館・ホテル等
木材・木製品	……………	製材、建材、家具等	情報・事業	……………	情報サービス、調査、広告、事業サービス等
			その他サービス業	……………	洗たく・理容、娯楽、自動車整備、駐車場、個人サービス等